

在住外国人インタビュー

馬 樹 茂 氏
ma shu mao

1982 天津美術大学卒業

1989 京都市立芸術大学日本画修士課程修了（上村敦先生に師事）

1992 文部省国際文化研究センターの研究員になり、中国と日本の美術比較を梅原猛氏のもとで研究する。

今回より始めました『在住外国人インタビュー』では県内でご活躍されている様々な方に、お話を伺っていきたくと思っています。

第1回では、日本画・水墨画・仏画・書の創作活動をされ、時には楽器が奏でる音楽に合わせて山水画を描かれることもある馬樹茂氏（日本・大津市／アメリカ・ロス・アンジェルス市在住）に、創作教室も開かれているご自宅のアトリエにてインタビューさせていただきました。

■私どもにとって「中国画」といいますと未知に近い分野ですし、それだけに関心も非常に高いのですが、今日は、いろいろとお教えいただきたいと思えます。

まず初めに、どのようなきっかけで日本にお越しになったのでしょうか。

1981年に鑑真和上の像が奈良の唐招提寺から中国に里帰りをしました。その時に和上の像を見て感動し、「描きたいな」と思ったのがきっかけです。

鑑真和上が何度も渡航に失敗しながら、失明しても目指した日本、そんな日本を描きたい、中国の文化を伝え、また自らも日本画を学びたいと思って来日したんです。

これが当時、描いた絵なんです。真ん中が鑑真和上です。遣隋使の一行を描いたんです（P4 下）。

■遣隋使と遣唐使と両方あるんですね。

はい。そうです。

■そうしますと、日本と中国の絵画の交流というのは、随と唐の時代くらいから始まったのでしょうか。

そうですね。一番最初は遣隋使の時代ですね。

■日本には？

1981年に敦煌に行った時、平山郁夫先生にお出会いしたんです。その出会いが、「日本の絵を習いたい」という思いを駆り立て、来日したんです。

3年間京都芸大で日本画の勉強をした後、梅原猛先生のところへ2年間在籍し、いろいろと日中美術の比較研究をしました。

■現在は、近江八景や琵琶湖の名勝、神社等をお描きになっているようですが、滋賀県には、どのような印象をお持ちですか。

以前、中国の天津にある天津美大で絵を教えていました。“天津”の“天”から一を取れば“大津”になるでしょう。たまたま自分の故郷の名前と似ている大津へ、琵琶湖のスケッチに行ったら、雲間から夕日が差して、その光の中に比叡山が浮かんでたんです。実にすばらしい光景に出会って、是非、ここに住みたいなあと思ったんです。

もう一つは、僕は中国にいた時に桃源郷に興味を持ってたんです。桃源郷っていうのは、想像の（超現実的な）場所で、実際にはないんです。ところが大津に来て、琵琶湖を見て、「これは日本の桃源郷ではないか」と思ったんです。湖の広さ、美しさに魅かれたんです。それに、観音のふるさと近江とか言われ、お寺もかなり多いし、奥琵琶湖もありますしね。

■日本画と中国画にはどのような違いがあるのでしょうか。

近江八景でいうと一番分かりやすいと思います。例えば、中国にも八景があったんですが、それは文化人とかが作った名

